

「文系か、理系か」なんて  
受験生特有の悩み過ぎなかつた

藤本憲一

小学生の頃、里山を駆け回ってクワガタを追ひ、図書館に通ってジユブナイル文学、探偵小説、偉人伝を読みあさっていた。初めて自分の意志で、心から欲しいと、発売を待ちかねて買った本は？ 小原秀雄『猛獣もし戦わば——地上最強の動物は？』、定価三六〇円。

そうした「猛獣」情報は今でこそ、文字どころか実写映像そのものが、ネット上に無料であふれている。が、当時は「野生の王国」(一九六三)をテレビで見ると、わが「動物文学五人衆」(バイコフ、シートン、ロンドン、戸川幸夫、椋鳩十)を涉猟するか、眠れぬ夜に妄想をたくましくして輾転反側するほか、すべがなかつた。その飢餓沙漠のカラカラ脳髓へ、「トラとヒグマはどっちが強い？」なんていう豊饒きわまる夢の対戦がブチ込まれ、動物行動学・生態学的視点から逐一リアルに分析しつつ、エイヤツと決着を

つけてしまうのだから、たまらない！

さあ、将来の夢は動物学者か、歴史家かと、文理両様に進路を迷う中高生の頃、もう一つ悩みができた。理系を志望するには、チト数学の点下がってきたのである。ボンビーボーイに私学進学を選択肢はなく、国立大理学部には数学が必須……、ああ、やはり文系しかないか……。

そのとき、大阪大学の赤本を手にとったのは、天啓か偶然か！ なんと、人間科学部のページにニホンザルの写真があり、「動物とヒトを比較行動学的に研究する」とあるじゃないか！ 受験型も文理半々、勝機わずかにありや!?

さて幸運にも無事入学後、文理両分野は一気に通底する。たとえば入学当初に受講した科目に、「文化人類学」と「人間学概論」があった。各々の授業の冒頭で担当教員が声をそろえていわく、「この科目名は、より広い概念としては anthropology に含まれます」とのこと。それどころか、「自然人類学」「社会人類学」「哲学的人間学」といった科目群も、すべて anthropology の一語に包摂されてしまうらしい。そもそも、この anthropology という概念には、文理の区別がないというから、驚き！ 「われは文系、理系いずれか」なんて、受験生特有の悩みに過ぎなかつたのだ。こうして、積年のプリンプリ(文理分離)の不安は氷解し、現在に至る。

文理のシームレスな連続性を実感できた一冊が、大学一年で買った伊谷純一郎『霊長類の社会構造／生態学講座(20)』。オスとメスの体型の差異 (sexual dimorphism) から群れの形が決まり、群れと群れが出会って社会が成り立ち、動物の形質と同じく社会構造も進化する。……なんて魅惑的なヴァイジョン！

極端に言えば、昆虫から情報社会まで、一種の「社会進化論」(スペンサー流のそれより、レムの「リンファートルの公式」により近い?)の統一的視点で読み解けるのだ。昆虫の群れにヒトの社会から接近し、逆に動物行動・生態との比較やアナロジーから、複雑多様な現代社会も分析できる(はず!)。一九九〇年代半ば、新しく登場したポケベルを駆使するコギャルの生態観察・行動分析は、そうした視点のたまものだったろうか……。

来年度、自らライフワークとすべく、満を持して新設科目「ヒトと動物の比較行動学」を投入する。小学六年時の「わが Eureka!」が、現代の女子大生にうまく伝わるかどうか……。とても楽しみだ。

## 『猛獣もし戦わば』

第一章はヘライオンとトラはどちらが強い  
か、第二章は《猛獣ワールドカップ前半戦》。  
このノリで第六章まで続く。著者は一九二七  
(昭和二年)、東京都生まれ。女子栄養大学教  
授を務めた動物学者。WWF(世界野生生物基  
金)日本委員会の常任委員を務めた。他に「ネ  
コはなぜ夜中に集会をひらくか」(花曜社/  
八六年四月刊)などの著作がある。文庫版は、  
一九七〇年にベストセラーズから刊行され  
た著作に加筆したもの。

(小原秀雄著／廣済堂文庫／一九九三年一〇月刊)

## 『霊長類の社会構造』

一九七二年、共立出版刊。現在は平凡社刊『伊  
谷純一郎著作集／第三巻』に収録。同巻の巻  
題名は「霊長類の社会構造と進化」。著者は  
一九二六(大正一五年)、鳥取県生まれの霊長  
類学者。京都大学卒。八一年に京都大学教授  
に就任。世界で初めて野生ザルの餌付けに成  
功し、ニホンザルの社会構造を解明した。そ  
の後はアフリカでチンパンジーの生態を研  
究。八四年、「人類学分野のノーベル賞」と言  
われるハクスリー記念賞を日本人で初めて  
受賞。二〇〇一年没。

(伊谷純一郎著／平凡社／二〇〇八年六月刊)

●ふじもと・けんいち 社会学者。武庫川女子大学生活環境学部情報メディア学科教授。一九五八  
年、兵庫県生まれ。大阪大学大学院人間科学研究科博士前期(修士)課程修了。専攻はメディア環  
境論。著作に「ポケベル少女革命」(エトレ「発行」、星雲社「発売」/九七年三月刊)、共著に「ポケベ  
ル・ケイタイ主義!」(ジャストシステム/九七年六月刊)、共編著に「戦後日本の大衆文化」(昭和  
堂/二〇〇〇年五月刊)ほかがある。

## 次の本へ

苦楽堂 編  
2014年10月31日 初版第1刷発行

装幀 原 拓郎  
装画 青山大介 (『海文堂書店絵図 1914-2013』)  
索引編集協力 福岡宏泰  
校正 聚珍社

発行者  
石井伸介

発行所  
株式会社苦楽堂  
<http://www.kurakudo.jp>

〒650-0024 兵庫県神戸市中央区海岸通2-3-11 昭和ビル101  
Tel & Fax 078-392-2535

印刷・製本 中央精版印刷株式会社

ISBN 978-4-908087-00-4 C0095  
©Kurakudo Inc. 2014  
Printed in Japan

### 本文仕様

タイトル・寄稿者名  
書名  
本文

筑紫明朝pro L(フォントワークス)  
ゴシックMB101Pro B(モリサワ)  
筑紫明朝pro R(フォントワークス)

### 装幀仕様

カバー  
オビ  
本表紙  
見返し  
別丁扉  
本文

ビズムマット(四六判Y目/110kg)※仕上げ=マットPP  
同上  
NTラシヤ(うす鼠/四六判Y目/170kg)  
タントV(V-52/四六判Y目/100kg)  
グラフィーエコカラー(冬白/四六判Y目/100kg)  
b7(クリーム/83.0g) 368ページ



# 次の本へ

次の本へ

苦楽堂 編

ISBN978-4-908087-00-4  
9784908087004

1920095018003

ISBN978-4-908087-00-4

C0095 ¥1800E

苦楽堂

定価(本体1800円+税)

# 84人の「読み案内」

すべて書き下ろし

84人の「読み案内」

苦楽堂

- 寄稿者一覧(五〇音順)
- 赤坂恵雄
  - 秋尾沙戸子
  - 石井厚蔵
  - 石黒格
  - 石橋毅史
  - 和泉法夫
  - 磯辺康子
  - 磯部涼
  - 井上理津子
  - 牛窪恵
  - 歌代幸子
  - 梅本克
  - 江坂彰
  - 江渡浩一郎
  - 遠藤勝裕
  - 円堂都司昭
  - 大河原克行
  - 大場潤一
  - 大原達朗
  - 小笠原博毅
  - 岡野裕行
  - 岡本貴也
  - 奥野宣之
  - オハタカスユキ
  - 甲斐真樹
  - 開沼博
  - 加護野忠男
  - 柏木博
  - 鎌田慧
  - 北沢夏音
  - 北村浩子
  - 切通理作
  - 楠木誠一郎
  - 古岡良行
  - 小西昌幸
  - 小橋昭彦
  - 小林照幸
  - 佐々木大輔
  - 設楽陸
  - 柴野京子
  - すがやみづる
  - 杉村芳美
  - 鈴木光司
  - 鈴木通
  - 高嶋哲夫
  - 高村薫
  - 高山文彦
  - 武田徹
  - 田坂広志
  - 立石泰則
  - 田中秀臣
  - 玉岡かおる
  - 田村正紀
  - 月村了衛
  - 中野不二男
  - 永原康史
  - 西岡研介
  - 新田匡央
  - 野口武彦
  - 花房観音
  - 早川光彦
  - 速水健朗
  - 日置公巳
  - 広瀬公弘
  - 深見嘉明
  - 藤井大洋
  - 藤本恵一
  - 藤元健太郎
  - 古川日出男
  - 穂村弘
  - 堀川恵子
  - 前野ウルド
  - 浩太郎
  - 牧野智和
  - 松原隆一郎
  - 三浦展一
  - 水越康介
  - 三田村路子
  - 宮内恭平
  - 宮内悠介
  - 山川徹
  - 山田太一
  - 山本一郎
  - 吉岡忍
  - 米倉智